

講演年月日	2004年11月10日(水)
講演者	原田隆史氏(慶應義塾大学文学部助教授)
テーマ	図書館におけるデジタル情報の発信
講義内容	<p>1. 図書館における Web サイト</p> <p>Web ページは 1991 年に利用が開始され 1996 年頃に安定化した。当時は内容よりもデザイン性が重視されていたが、今はデザインよりも内容が重視されている。Web ページは、必要な時、必要な人に、必要な情報を簡単に送り届ける技術。また、人員・予算減の傾向にある中、人手と手間を掛けずに図書館が自己の存在をアピールできる有効なツール。継続的に内容を更新し、利用者の反応に迅速に対応することがその Web サイトの評価を上げることに繋がる。</p> <p>2. Web サイト作成の手順</p> <p>サーバーをたてる HTML を書く サーバーへ転送する Web サイトの更新・管理。自前でサーバーをたてるのはとても簡単だが Computer Cracking や Virus などのセキュリティ対策が大変。</p> <p>3. Web ページの更新</p> <p>HTML はテキスト情報と静止画像を発信する静的な動作の実現のためのテキストなので Web サイトの内容を更新するためにはクライアントで内容を新しく書き直してサーバーへアップロードする必要がある。内容を更新する方法は、この他に Web ページ上から入力することにより Web サーバーに反映するプログラミングを利用する方法がある。これらのプログラミングのうち初心者でも簡単に利用できる汎用プログラミングは、クライアントで実行するものに CGI (HTML の内部に書き込む) サーバーで実行するものに JavaScript (HTML の外部に書き込む) PHP (HTML の内部に書き込む) などがある。</p> <p>4. 表示内容と表示形式の分離: CSS と XML と XSL</p> <p>CSS は HTML、XHTML、XML の文書の見栄えを調整するための表現形式に関するスタイル言語。XML は、SGML から派生した記述言語でタグを自ら定義することができるので、データを更新させる際に XML 中の該当データを更新すれば即座に Web 情報を更新することができる点で、データの交換に適している。データの内容(構造を定義したもの)にあたるのが XML で、XML に特化したデータの表示形式に関するスタイル言語が XSL。</p> <p>5. ユーザビリティとユニバーサルデザイン</p> <p>例えば視覚障害の方が音声読み上げソフト等を利用して音で Web ページを閲覧するといったように、Web ページ利用者の誰もが簡単に目的を達成するよう、わかりやすく使い易い Web ページを作成することが求められている。</p> <p>(関連情報 日本 IBM 浅川智恵子氏: 視覚障害を持つ人にもインターネット情報を使いやすくするためのソフトやシステムの開発に従事。慶応大学上田修一教授: Web 情報のユーザビリティの指標を作る)</p>